

《担当者名》 加藤倫子（非常勤講師） lc-m-kato@hoku-iryo-u.ac.jp（アドレスの先頭は小文字の「l」です）

【概要】

「社会学(sociology)」は高校までの「社会科(social studies)」と異なる。また社会学は同じ「社会科学(social sciences)」に属する法学や経済学とも区別されるが、それは単に研究対象が異なるのではなく、同じ対象であっても分析・考察する視点や概念が異なることによる。社会学で学ぶ事項は多岐に渡っており、この授業では「相互行為」「家族などの親密な関係性」「メディア・情報・コミュニケーション」「ジェンダーとセクシュアリティ」「階層・階級・社会的不平等」「社会問題」といった項目を扱う。これら事項にかかわる諸現象・諸問題について他の学問とも「常識的な見方」とも異なる社会学独自の分析・考察の観点を提供する。

【学修目標】

[一般目標]

社会人および医療人として現実的な社会現象を分析する視角としての「社会学的視角」を理解し、その分析視角および分析概念を応用可能なレベルで身につける。

[行動目標]

1. 社会学が取り扱う領域の広範さを踏まえ、その中から自身で関心のある現象にアプローチし分析する視点と方法を身につける。
2. 現代社会に発生する対人相互的・集団的及び全体社会的な諸現象を各自が分析するための社会学の基本的概念を理解する。
3. 変容・変動する現代社会の趨勢を踏まえ、個人の自由や多様な価値観を保持しつつも他者の生存権や自由を毀損することのない公正・公平な社会はいかにして可能かを構想する。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	イントロダクション・「社会学」の視点	「社会学的な視点」とは何かを理解するとともに、自身が関心のある社会問題について検討する。具体的な事象を切り取り、理論的な問いとそれを結び付ける方法（社会学の問いの立て方と調査方法）について説明する。	加藤倫子
2	身近にある「あたりまえ」を疑ってみよう	生産性や「わかりやすさ」をキーワードに、身近にある「あたりまえ」が孕む問題点について理解する。社会学的思考の最たる特徴である自明性への懐疑的・批判的な態度を実践を通じて身につけることをめざす。	加藤倫子
3	私たちはメディアをどう使うか？	人びとはどのようにSNSを利用しているのか。自身のSNS利用を振り返るとともに、さまざまなデータにもとづき、その実態を理解する。	加藤倫子
4	文化とは何か？	かわいい（文化）」を題材に、人びとがどのようなものを「かわいい」と表象してきた／しているのかを考察し、それが社会のありようどのように結びついているのか、とりわけ「かわいい」などの文化がモノを売ることと関係していることを検討する。	加藤倫子
5	性を意識するのはどういうときか？	女性ファッション誌を題材に、そのなかで女性の生き方がどのように描かれているかを分析する。この作業を通じて、女性のみならず、生き方やライフスタイルが性別と結びつけられるとはどういうことかを理解する。	加藤倫子
6	家族とはどういう社会か？	公式統計から1990年代以降の「配偶者による殺人」と「子による殺人」の趨勢を捉える。その上でその背景にある「家族」という関係性の中で生じる問題を理解する。	加藤倫子
7	エスニシティは身近にある？	グローバル化の影響により、日本人にとって外国人が身近な存在となる一方で、外国人技能実習制度や「外国にルーツを持つ子どもたち」という事例を見ると差別が現存している。なぜこのようなことが起こるのかを考察する。	加藤倫子
8	格差がなくなるのはなぜか	現代社会における貧困や、男女の賃金格差、世代間格差など、さまざまな格差の事例の考察を通じて、格差が生じる／再生産されるメカニズムや人びとの人生に格差がどのような影響を与えるのかについて理解する。	加藤倫子

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
9	働くとはどういうことか？	就活での標準的なふるまい方や「社畜」的な働き方への疑問を通じて、官僚制的な組織が要請する「労働のあり方」について考察する。	加藤倫子
10	福祉や教育はどのようにして決まるのか？	国による福祉や教育の充実度の違いは何によって決まるのかを、国際比較のデータにもとづいて検討する。	加藤倫子
11	地域社会は誰が作るのか？	地方と都市部での人間関係のあり方や、それぞれが直面する課題についてとりあげ、地域社会（コミュニティ）がどのような特徴・機能を持っているのかを把握する。	加藤倫子
12	自然環境といかに向き合うか？	自然環境を守るためのプロジェクトをめぐって、なぜ賛否がわかれるのかを考察する。また、近年、環境保護団体が過激化しているという現象において生じているパラドクスについて検討する。	加藤倫子
13	社会問題はいかにして起こるのか？	「多重債務」という社会問題を題材に、「ラベリング理論」などの社会学的概念を踏まえつつ、それが起こるメカニズムを紹介したうえで、その背景にある社会の状態やしきみ、さらにはそれがもたらす帰結について考察する。	加藤倫子
14	自分と他人の関係とはどのようなものか？	自分が何者であるかを考えるとともに、他者（からのまなざしや承認）が自己の形成にとって大きな影響を与えていることについて検討する。	加藤倫子
15	総括	これまでの学習事項を確認し、整理する。そして、残された課題を展望する。	加藤倫子

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

平常点（授業内で個別ワークやグループワーク等を行うのでそれへの参加度やその内容）40%＋レポート60%とする。

【教科書】

特に使用しない。必要な資料は適宜配付する。

【参考書】

本田由紀 『「日本」ってどんな国？ 国際比較データで社会が見えてくる（ちくまプリマー新書）』、2021、筑摩書房
 筒井淳也 『社会を知るためには（ちくまプリマー新書）』、2020、筑摩書房
 ケン・ブラマー著、赤川学監訳 『21世紀を生きるための社会学の教科書（ちくま学芸文庫）』、2021、筑摩書房
 その他、適宜紹介する。

【備考】

授業資料の配付はGlexaを利用する。学生相互の意見交換を目的にGoogle Classroom を活用するほか、Google Classroomを利用して学習課題を提示することがあるので、適宜確認すること。

【学修の準備】

・事前学修（学修時間2時間分）

授業資料はGlexaを用いて配布する。事前に目を通し、各回のテーマに関連した問いを提示するので、どのような事象が関連しそうかを考えてくること（予習80分）

・事後学修（学修時間2時間分）

各回終了後には、講義内容を復習すること（復習80分）

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

DP6．社会環境の変化や保健・医療・福祉の新たなニーズに対応できるよう自己研鑽し、自らの専門領域において自律的・創造的に実践する能力を身につけている。

DP1．生命の尊厳と人権の尊重を基本とした幅広い教養、豊かな人間性、高い倫理観と優れたコミュニケーション能力を身につけている。